田村市の文化財

問教育部 生涯学習課 ☎81・1215

『仏像』

仏像とは、仏教の開祖である「仏」様の像に加え、仏教にまつわるあらゆる像を総称した呼び名です。

仏像には大きくわけて「如来」「菩薩」「明王」「天部」の４つの種類があります。仏像の中で最も上位にあたり、悟りを開いているのが如来です。その次に位置するのが、悟りを開くため修業している最中にある菩薩です。その次が、激しく怒っているかのような険しい表情をしている明王です。その次が、上位の仏に従い、敵と戦う人々の守り神で、戦士や天女などの天部です。

このほかにも、さまざまな種類の仏像がありますが、仏像は信仰礼拝の対象としてだけではなく、芸術的・美術的な観点から鑑賞されるほか、今日では美術品としての価値も高まっています。

市指定有形文化財の仏像は25軀あり、そのうちいくつかをご紹介します。

はじめは、滝根町菅谷・入水寺観音堂に安置されている木造聖観世音菩薩立像（写真①）です。一木造りで高さは約１５４センチあり、その作風から室町時代頃のものと推定されます。入水寺縁起によると、しばしば火災に遭っており、腕や台座などは後補となっています。

次は、都路町岩井沢・長岩寺に安置されている木造薬師如来坐像（写真②）です。高さは26・5センチあり、造立年代は不明です。長岩寺由来記によれば、昔、干ばつがあった時、ひとりの翁が現れて雨ごいをしたところ大雨が降ったといい、その翁が背負っていたのがその像だったとされます。

次は、常葉町関本・東円寺薬師堂に安置されている東円寺薬師堂仏像群（15軀）（写真③）です。堂内中央に薬師三尊（薬師如来、日光菩薩、月光菩薩）と、それを取り囲むように十二神将が配置されています。諸像はいずれも江戸時代の作と推定されます。

最後は、船引町堀越・龍泉寺に安置されている木造薬師如来坐像（写真④）です。寄木造りで高さは42・7センチあり、両手首より先が欠損し、像名を判断することはできませんが、頭部内に「永和元年」（１３７５）の年号とともに「奉造立薬師如来」と墨書されていることから造立年と尊名がわかります。

1

2

3

4

1 木造聖観世音菩薩立像
2 木造薬師如来坐像
3 東円寺薬師堂仏像群
4 木造薬師如来坐像

次回は「城館跡」を紹介する予定です。
田村市の文化財一覧はこちら▶▶▶

田村市の秀でた魅力を秀が発信

田村市の皆さん、こんにちは。５月から、地域おこし協力隊として田村市へ移住してきました高橋秀です。現在は、地域おこし協力隊のミッションとして、田村市の観光を盛り上げるべく、観光コーディネーターとして活動しています。

田村市に移住し、まだ数カ月ですが、関わりを持たせていただいた田村市の皆さんは明るく、温かみのある方々ばかりで、魅力的なまちだと感じています。そのような方々の魅力や、観光施設・名産品などをこれまで以上に発信していき、多くの人が田村市に足を運んでもらえるようにしていきたいと思います。

また、まだ知名度はないけれど魅力的な体験や観光スポット、食べ物などが田村市には数多くあると思います。そのような魅力の発掘や、周知などを地域の方々と一緒にできればと思います。

これまで田村市を盛り上げてくださった方々への敬意を忘れることなく、これからのまちをつくっていく方々、子どもたちの挑戦に寄り添えるような活動にしたいと思います。田村市を、みんなの力で盛り上げていきましょう。

▼プロフィール
宮城県大崎市出身。田村市の農業体験アクティビティ、農泊の実証、ワーケーションの誘致、既存の観光施設などの魅力再発掘など、ここならではの事業やこれまでになかった事業を実施し、元気な田村を広く発信、新しい風を起こそうと尽力する27歳。

海を越えて　英語指導助手ペンリレー　No.123

スティーブン・オーツさん
アメリカ合衆国テキサス州出身
（田村市に来て１年目）

豊作

10月が来ると、日本人の生活にとって重大な行事「米の収穫」が行われます。日本には、土地を切り開いて整備された棚田が、地域の人々によって今も大切に管理されています。

田村市の稲田は、日本各地の農村地帯と似ていると思います。適する土地があれば、どこにでも稲田が作られます。冬や春の初め、棚田は乾燥して何もない状態ですが、ところどころに残る昨シーズンの収穫の跡が、市民が生活する上で欠かせない土地であることを思い出させてくれます。春の終わりの雨は、土地を浅い水で満たし、農家が長年従事してきた水田農業の準備をします。田植えは骨の折れる仕事で、ある部分は今でも手作業で行われています。５月初旬に、整然と並ぶ植えられたばかりの苗は、地域の景色を隅々まで彩ります。

蒸し暑い夏とよく降る雨は、稲を急速に成長させます。夏が終わって秋を迎え、黄金色の稲の波は、揺らめく海のように、そよ風に優しくなびきます。稲穂は実るほど頭を垂れ、農家の人たちはとても感謝します。10月は稲刈りがあるため、日本の農家にとって重労働な時期ですが、また信じられないくらい実りの月でもあります。

夏が終わると、紅葉、稲田の恵み、いつものように秋にやってくる涼しさを楽しみに待ちます。日本の冬の寒さに備える前に、このしばしの休息を大事にして、本年の収穫が豊作であることを願います。日本には、素晴らしい稲作文化があります。